

## 行仙宿巡回(破損ガラス窓復旧)と熊野修験宿泊接待の支援など

◇実施日：2018年5月26日(土)曇り

◇参加者：川島 功、沖崎吉信、濱野兼吉、生熊敏男、畑林秀味、

松本 良・邦子。 計7名。(外支援者7名)

熊野修験・春峯奥駈行(玉置神社)前鬼・小仲坊)が、実施され本日行仙宿に宿泊されるが、昨年まで宿泊の指揮を執られていた山上さんが勇退されたので、宿泊接待者支援と連休中に発生した破損ガラス窓が修復されたので、復旧取付けに行仙宿に登った。今にも雨が降りそうな曇天であるが、午後から晴れ間が見られ、雨に遭ない予報となっている。

新宮8時半前に沖崎車(川島・濱野同乗)で出発し、10時前に登山口に到着。

濱野・川島は、モノレールで修復ガラス窓と当ぐるーぶの荷を運搬する。沖崎氏は、宿泊者を接待される方達が弁当・食料・資材等を程なく持ち込まれるので林道で待機。又、到着される間に下北山村から寄贈の棧木丸太受入場所を確保したとの事。

終点に到着すると、行仙宿に荷を置いて荷上げに降りて来られた小山氏と出会う。弁当等の荷が未だ到着していない旨を伝え、濱野・川島は先行する。

行仙宿に10時45分頃に到着し、資材倉庫と管理棟の鍵を開け、行者堂前に幟を約10本立てる。濱野氏に造花シキミを生木シキミに取替えて貰う。川島は、風雨吹込み防止に窓枠に取付けられているトタンやネジ止め板を取外して、修復したガラス窓を嵌め込み復旧する。

11時20分頃に終了し、荷上げにモノレール終点に降りようとしていると、沖崎氏が登って来られ、生熊氏は荷を積みモノレールで林道へ降りたとの事。



M機終点上を担ぎ歩く 行者堂前の幟立て



破損ガラス窓・復旧

支援者が10人位居るので荷上げに下りなくとも荷が上がると思うとのことであったが、濱野・川島は荷上げ支援にモノレール終点へ。終点には、荷が在るが誰も居ない。朝早くから車回送等で動かれていますので、林道で昼食されているようだ。荷を担いで12時過ぎに行仙宿に戻り3人で昼食。

宿泊接待者が、続々と登って来られる。宿泊接待の責任者は、松本 良夫妻・小西君子さんと思われ、会友扱いの松本ご夫妻に明日下山時の幟旗撤収と戸締り等を依頼する。

笠捨山迄の迎え組は、4名(生熊青・番留・坂口・谷口)。夕食準備と水汲みは、8名(松本夫妻・小山夫妻・小西・中西・生熊敏、畑林秀)の様である。

沖崎氏は、腰痛再発の兆候があるとのこと、小山・濱野・川島は、水場確認と多人数の水汲みなので、事前にペットボトルとポリタンが満杯になるようにするために水場に降りる。

水場は、僅かにオーバーフローしている水量である。何とか用意した容器分は汲めそうである。

ペットボトルを満杯にする作業は、小山氏に任せて、濱野・川島は、70ポリタンクを担ぎ行仙宿に戻ると、畑林秀・生熊敏氏が到着されていた。

畑林・生熊氏は、熊野修験一行(21名)が行仙宿に到着後に下山されるそうです。(19時過ぎに帰新)

明日は、一行を持経宿で湯茶など接待のため新宮5時半発なので、沖崎・濱野・川島は宿泊接待者にお任せして、下北山村から寄贈頂く棧木丸太に被せるブルーシートを登山口に降ろす。帰路、行仙宿に居られる生熊氏に電話をして、明日作業で使うチェーンソー1台を降ろし、持参する旨をお願いし帰新した。



本日の作業参加者

### 行動タイム

新宮8:25→9:55登山口10:05→モノレール終点10:20→10:45行  
仙宿↓幟立て・ガラス窓復旧↓行仙宿11:20↓荷上げ→12:05行  
仙宿(昼食)12:45→水汲み→行仙宿13:50→14:20登山口14:25→  
15:50新宮。  
(記:川島)